

帆船日本丸が国の重要文化財へ!

❖2017(平成29)年3月10日(金)、国の文化審議会は帆船日本丸(横浜市所有)を重要文化財に指定することについて、文部科学大臣に答申しました。重要文化財に指定される見通しです。

名称及び数量	所有者
日本丸 昭和五年、株式会社川崎造船所製	1 艘 横浜市
附 一、文書・記録類	1 8 1 点
一、図面類	3 5 1 点

❖帆船日本丸は、①戦前戦後の長きにわたり船員養成を担い、わが国海運業の発展に貢献するとともに、②ディーゼル機関導入期に国内技術で開発された船舶用ディーゼル機関を搭載した③希少な横肋骨方式、リベット構造船です。また④航海日誌や機関長日誌類、建造時の図面類に加え、船体・機関の来歴簿や検査手帳類など残っており、大型帆船の構造、艤装をよく伝え、わが国の海運史、造船技術史上貴重であることが評価されました。

❖帆船日本丸は船舶資格(平水区域航行練習船)がある、水上で保存されている船舶としては、初の重要文化財指定です。なお、水上で保存されている船舶の重要文化財指定としては、昨年の氷川丸に次いで2番目です。

❖帆船日本丸は横浜市が所有し、帆船日本丸記念財団・JTB コミュニケーションデザイン 共同事業体が管理運営しています。



すべての帆を上げた日本丸

❖ 帆船日本丸は文部省が公立地方商船学校の船員養成用の練習船として、1930(昭和 5)年に(株)川崎造船所(現、川崎重工業(株)船舶海洋カンパニー神戸工場)で建造した鋼製帆船(4 檣バーク型※)です。
※最後尾の帆のみが縦帆、他の 3 本のマストは横帆の帆船。

❖ 1930(昭和 5)年の就航以来、1984(昭和 59)年までの 54 年間にわたり、文部省航海練習所、逓信省海務院、逓信省(後の運輸省)航海訓練所と所属を変えながらも、戦中期の内航物資(石炭)輸送、終戦後の引揚者輸送、朝鮮戦争時の特殊輸送に従事した時期を除き、一貫して船員養成の実習訓練帆船として使用されました。

❖ 帆船日本丸は太平洋を訓練海域として、54 年間に延べ 183 万キロを航海し、約 11,500 人の船員を養成しました。

❖ 帆船日本丸は、1984(昭和 59)年に 2 代日本丸竣工にともない練習船用途を廃止しました。引退にともない誘致を表明した 10 都市から横浜市が選ばれ、引き渡されました。改修後は旧横浜船渠(株)第一号船渠(2000(平成 12)年国指定重要文化財)内に係留保存され、一般公開されています。年 12 回ほど市民ボランティアの協力で、すべての帆を広げる総帆展帆(そうはんてんぱん)を実施するほか、青少年向けの海洋教室などを開催しています。

帆船日本丸主要目

船種	練習船 鋼製帆船 4 檣バーク型
建造所	(株)川崎造船所(現、川崎重工業(株)船舶海洋カンパニー神戸工場)
建造年	1930(昭和 5)年 3 月 31 日
全長	97.05m / 幅 12.95m / 総トン数 2,278.25 トン
速力	機走 8.0 ノット 帆走 13.0 ノット(最大)

記念イベント

3月20日(月・祝)は、帆船日本丸・横浜みなと博物館は入館無料です。

4月16日(日)には今年最初の総帆展帆と記念演奏会を開催する予定です。

横浜みなと博物館で企画展「帆船日本丸の航跡」(7月15日(土)~9月3日(日))開催。

帆船日本丸記念財団・JTB コミュニケーションデザイン共同事業体

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-1-1 TEL045(221)0280(代表) www.nippon-maru.or.jp/